

こちらの沢は両岸がせげばまり、ナメも落差のある連瀑帯が続き、高捲いて下降。
下流部には取水用の塩ビ管がぶらさがっている。連瀑帯を過ぎると河原となり、
まもなくF1。2段9mの滝で、滝下が取水せきとなっている。取水せき下は広い河原で、そこを通りぬけて摺
上川本流に出る。下降終了11時55分。

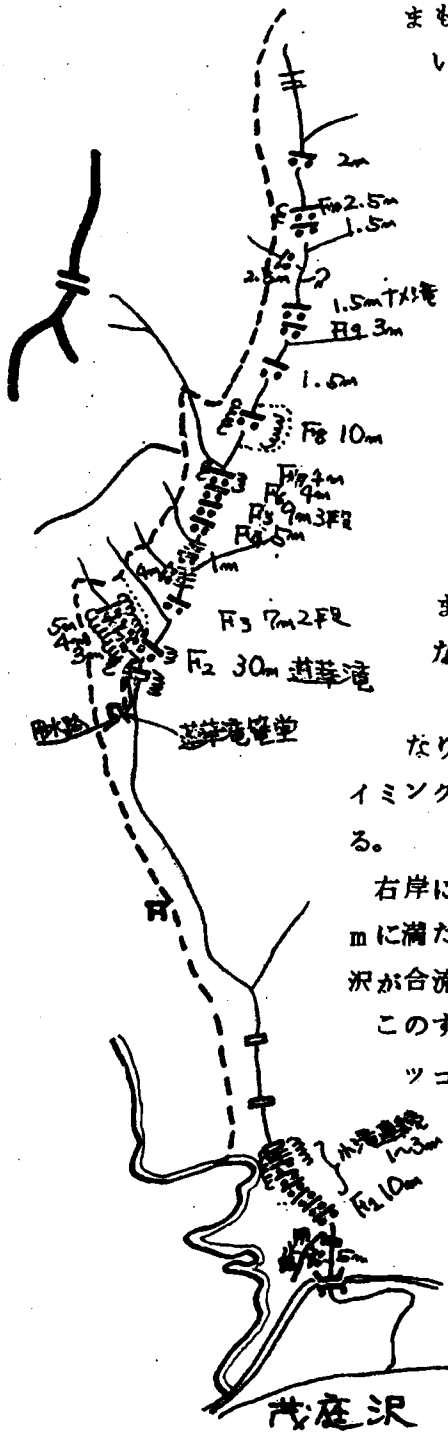
(記・

コル(10:00)——下滝野沢(仮称)出合(10:
25)——取水せき(11:35)——摺上川本流(
11:55)

1982年5月23日

茂庭沢上流部(下降)

L:カ



小沢を下降して林道へ出、この林道をそのまま県境
まで歩いてから茂庭沢の下降に入る。林道は少し広く
なった所から先は廃道化していた。

沢に入るとすぐに水が出てきた。少し下ると二俣と
なり、その下に小滝がある。2m。右岸の木を使ってクラ
イミングダウン。しばらくするとF10 2.5m。左岸を下降す
る。

右岸に林道の広がっている所のガレ場が見えている。1
mに満たない滝が4つ連続して現われ、その先で右岸より小
沢が合流する。この小沢、本流より水量が多い。3倍もある。

このすぐ下左岸にはトンネルの跡らしいものがあり、トロ
ツコの残がいてもあって、レールも残っていた。昔、このあ
たり一帯には、大小の金や銀の鉱山があったそうで
である。有名なのは半田銀山であるが、こののも
その1つであったのだろうか。

小休止後、再び歩き出す。しばらくすると、F
7 10mが出てくる。下はゴルジュ状。左岸を捲
いて下りる。ここらあたりからが核心部で、F7
4mは左岸をクライミングダウン。次のF6 4m

も左岸をクライミングダウンする。F3 3段滝、F4 5mと越える。このあたり小沢が次々と合流してくる。F3 2段7m。左岸よりをシュリングを使い、トラバースぎみに降りる。沢がゴルジュ状になってきて、2.5m チョックストーン滝。シャワーぎみに降りれそうだったが、右岸を捲いてアップザイレンにて降りると、続くF2(蓮華滝)が30mもあり、ここは降りられない。右岸のガレ場を、ザイルを使い、途中に何本か立木等を用いてピレーをとり、2ピッチ半の登りにて、登山道に出た。時間も遅くなったので、今日はここで下降を中止して、登山道を下ることとした。(記)

コル(12:45)——林道(13:20)——県境・下降点(14:00)——蓮華滝(16:00)——竜堂(17:20)——田畑(18:05)

茂庭沢下流部

1982年8月8日

L

8:05 溯行開始。今年は梅雨あけが8月1日と例年になく遅れたうえ、スカッとした青空が広がらない。今日も空模様は何となく不安定。にわか雨くらいはきそうである。

歩きはじめてすぐ5m程の滝が右岸に見える。もっともこれは支沢にかかる滝ではなく、用水路からの過剰の水が流れ出て滝になっているにすぎないようだ。20分程進むと10m程の滝(F1)。右岸の一筋のブッシュ帯を登り、岩棚をトラバースして、最後は1m程の高さの所をエイヤツと飛び降りる。

この上は10個程の小滝が連なるゴルジュ帯だ。丸い深い釜とスタンスの少ないよぐみがかれた岩盤が続いている。もし滝にもう少し高度があれば通過は困難な所であるが、おしいかな、滝の高さは1~3m程にすぎない。体をつっかい棒のようにして登ったり、斜面を駆けぬけたりして、結構突しんで登れた。予想もしていなかったゴルジュ帯の出現に気をよくしたが、この先は完全に平凡。滝も何もなく、蓮華滝までおき目もふらず、ただひたすら登るほかなかった。

蓮華滝は30m程の落差をもったなかなか見事な滝である。そばに小さな洞が置かれ、霊場としての雰囲気も充分。近くには立派な竜堂もある。今日はここで溯行を打ち切って下山にかかる。(記)

茂庭沢出合(8:05)——蓮華滝(10:55, 11:25)——田畑(12:30)